

真・魅力通信

保幼小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会 その2

～分散会での話合いから見えてきたもの～



テーマ：幼小中一貫教育カリキュラムとつながっていること、
これからつなげたいこと

学びづくり部



- 遊びを終えた後、「振り返り」を行う活動を大切にしている。
- 好きな遊びを選んで追究（主体性）している。「明日はこうしてみようかな」
- 幼稚園から送り出した子どもがどこでつまずいているのか知りたい。（接続）
- ステージ制を敷き、6月は「つながるステージ」として、話す・聞くトレーニングを月1回行っている。
- 「どまんなかテスト」を復活させた。めあてを立て、振り返りをさせながら成長を実感させている。（学びの実感）
- 月ごとに重点を絞ってめあてを立て、キャリアパスポートに記録している。
- 全クラスに、「対話の技」が掲示されている。
- 話す・聞くのスキル表を掲示
- 「けてぶれ」を意識した家庭学習を行っている。
- きれいなノートを作る自主学習でなく、目的に応じた取組を進めている。
- 定期テスト前に限らず、学習計画表を取り組んでいる。

心づくり部



- 年長は、耳だけでなく、目を使って話を聞こうとしている。
- 園の帰りの会で、楽しかったことやよくなかったことを話し合うようにし、自分なりに振り返っている。
- ボイスシャワーの取組を園内で共通理解を図っている。また、家庭にも広げていこうとしている。
- プロジェクト保育「えらかったね」の繰り返し。
- 「西小っこしぐさ」を学校全体で取り組んでいる。
- 朝の「ウェルカム動画」を流している。
- 「ふわふわことば」「よいことみつけ」の実践。
- 「にこにこコーナー」を各学級に設置している。
- 掃除の動画づくりを通して、生徒主体で学校生活向上を図っている。
- ステージ制を取り、各クラスで「一点突破」を決め、期間中意識して生活している。また、PDCA サイクルを生徒主体で回している。
- 一人一役を任せ、できたことは認めている。(活躍の場+ボイスシャワー)
- ピンクシャツデー(いじめ撲滅運動)を生徒会主催で行っている。

体づくり部



- 一人一人を認める保育を目指している。言葉を発することができない子も安心して過ごせるように意識していきたい。
- 運動会ではなく「おまつり」のようなイメージで、年長と先生が競技を考えていきたい。
- 「挑戦カード」…食育クイズ形式で、残食を無くす取組をしている。
- 「体を動かすことが楽しい」児童を増やしていきたい。「体カアップコンテスト」を全クラス2回以上実施している。
- 5ステージ東っこオリンピックの実施。①ぐんぐん集団体カテスト②水泳③運動会④持久走⑤なわとび 達成感を味わい、伸びを実感できるように。
- ルールを工夫したり、体育委員会からの遊びの紹介を行ったりした。(主体性)
- 彩雲祭(体育大会)の競技を生徒主体となって考えた。仲間づくりに生かせるよう、生徒自身がいろいろなことに配慮した。

※ 袋井あやぐも学園のあゆみは、「デジタル職員室→掲示板→袋井中校区」を御覧ください。